

# 岡山県感染症週報 2014 年 第 7 週 (2 月 10 日～2 月 16 日)

3 月 1 日 (土)～7 日 (金) は「子ども予防接種週間」です。  
4 月からの入園・入学に備えて、必要な予防接種をすませましょう。

◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

## ◆2014 年 第 7 週 (2/10～2/16) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第 5 週 2 類感染症 結核 1 名 (90 代 女)  
第 7 週 5 類感染症 急性脳炎 2 名 (幼児 男 1 名、20 代 男 1 名)  
風しん 1 名 (30 代 男)

### ■定点把握感染症発生状況

○インフルエンザは、県全体で 1787 名 (定点あたり 21.84 → 21.53 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。  
○感染性胃腸炎は、県全体で 351 名 (定点あたり 6.79 → 6.62 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。  
○咽頭結膜熱は、県全体で 35 名 (定点あたり 0.49 → 0.66 人) の報告があり、2 週連続で増加しています。

### 【第 8 週 速報】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 56 施設でありました。(2 月 17 日～19 日)

- インフルエンザ**は、県全体で 1787 名 (定点あたり 21.84 → 21.53 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。1 月末ごろと比べると報告数は減少したものの、依然として多くの患者が報告されており、岡山県では「インフルエンザ注意報」を発令中です (1 月 16 日発令)。地域別では、岡山市 (29.27 人)、倉敷市 (25.88 人)、備中地域 (20.42 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山市及び倉敷市では再び報告数が増加しました。インフルエンザによる入院患者は 9 名の報告がありました。インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 61 施設であり、第 8 週も臨時休業が多発しています。県内の発生状況など詳しくは、[「インフルエンザ情報」](#)をご覧ください。  
全国の第 6 週の発生状況を見ると、定点あたり 30.72 人であり、16 週ぶりに減少しました。
- 感染性胃腸炎**は、県全体で 351 名 (定点あたり 6.79 → 6.62 人) の報告がありました。前週とほぼ同数の報告となり、依然として多くの患者が報告されています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは [「感染性胃腸炎情報」](#) をご覧ください。
- 咽頭結膜熱**は、県全体で 35 名 (定点あたり 0.49 → 0.66 人) の報告があり、2 週連続で増加しています。詳しくは、「今週の注目感染症」をご覧ください。

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★★★★	RSウイルス感染症	➡	★★
咽頭結膜熱	↗	★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	↗	★★
手足口病	↗	★	伝染性紅斑	↘	
突発性発疹	↘	★	百日咳	↘	
ヘルパンギーナ	↗	★	流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	↘	★
細菌性髄膜炎	↘		無菌性髄膜炎	↘	
マイコプラズマ肺炎	↘		クラミジア肺炎	↘	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡				

【記号の説明】 前週からの推移:

 : 2 倍以上の減少     
  : 1.1～2 倍未満の減少     
  : 1.1 未満の増減  
 : 1.1～2 倍未満の増加     
  : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし   ★: 僅か   ★★: 少し   ★★★: やや多い   ★★★★: 多い   ★★★★★: 非常に多い

今週の流行状況を過去 5 年間と比較し、5 段階で表示しています。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

**3月1日（土）～7日（金）は「子ども予防接種週間」です。**  
**4月からの入園・入学に備えて、必要な予防接種をすませましょう。**

我が国では保護者を始めとした地域住民の予防接種に対する関心を高め、予防接種率の向上を図るため、毎年3月1日～7日を「子ども予防接種週間」とし、さまざまな企画や啓発活動を実施しています。

岡山県でも、この期間内に、趣旨に賛同した医療機関では、ワクチン接種を行うとともに、ワクチン接種に関する相談にも応じています。また、医療機関によっては土曜日、日曜日等、通常の診療時間外の接種も行っています。

- ・ [【平成 25 年度子ども予防接種週間】](#)（岡山県 健康推進課ホームページ）

## 今週の注目感染症

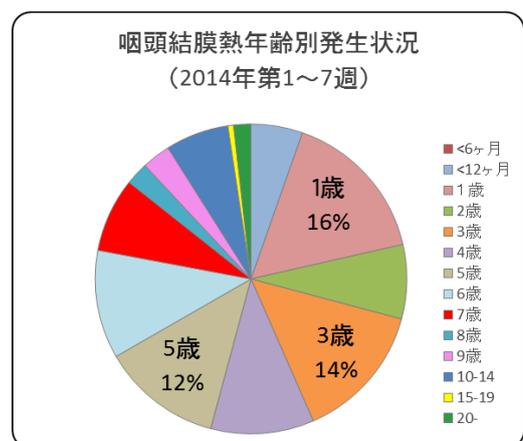
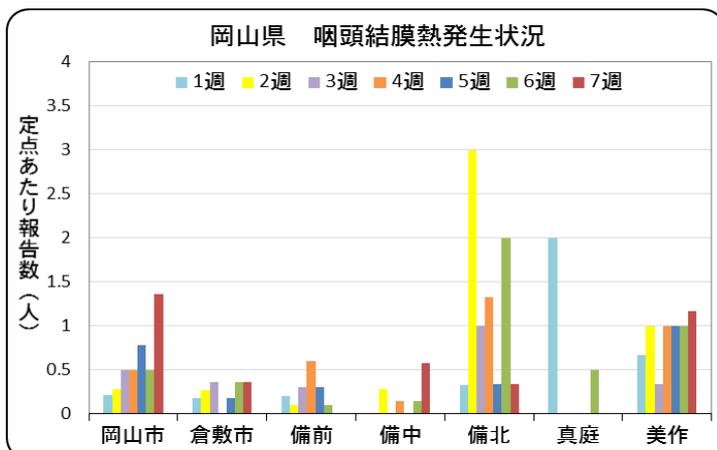
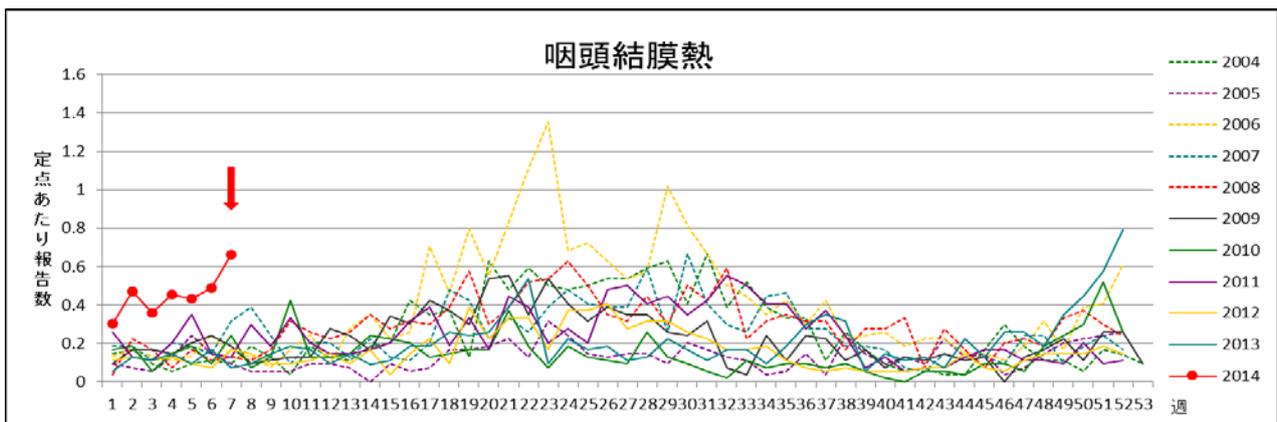
### 1. 咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は、感染症発生動向調査において、5類の定点把握感染症であり、定点医療機関において、医師は咽頭結膜熱患者を診断したときには、翌週の月曜日に最寄りの保健所に届出ることになっています。

また、学校保健安全法等において、主要症状が消えた後2日を経過するまで出席停止とされています。

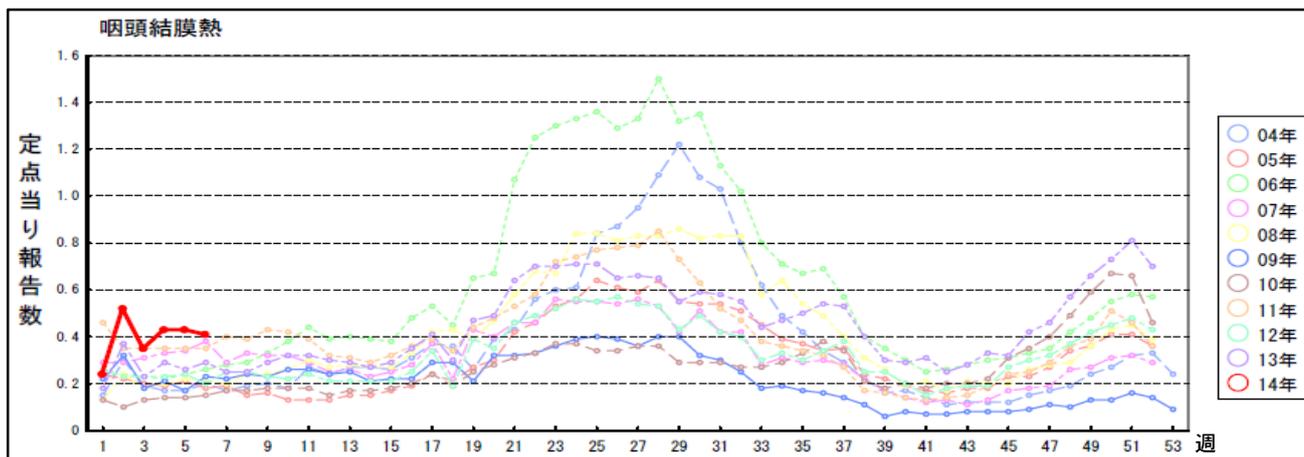
[咽頭結膜熱とは（国立感染症研究所 感染症の話）](#)

#### 【岡山県の発生状況】



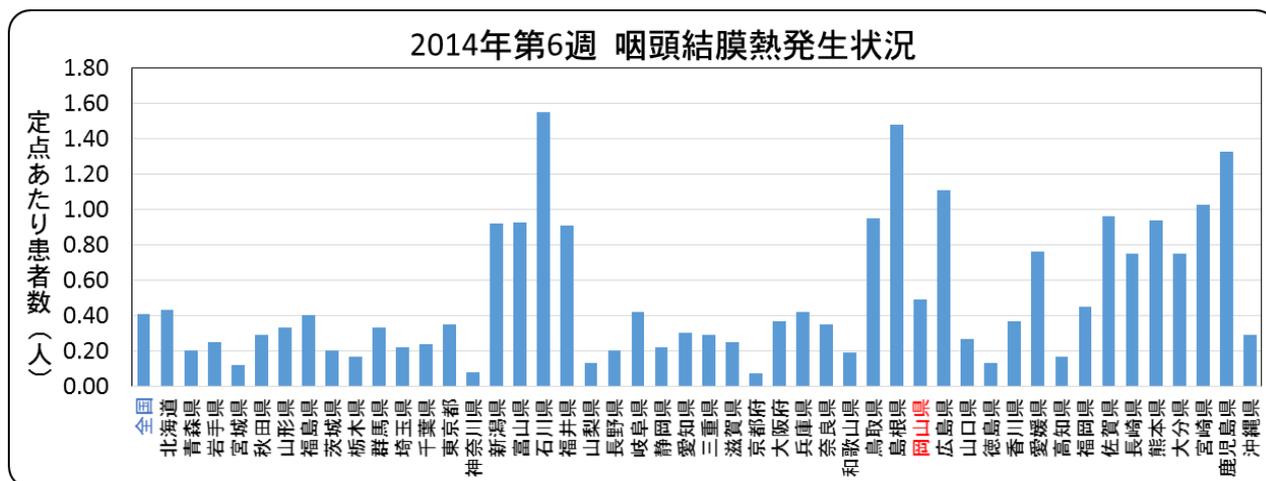
咽頭結膜熱は、第7週には県全体で35名（定点あたり0.49→0.66人）の報告がありました。第6週から2週連続の増加となり、2013年第49週以降、過去10年の同時期で最も高い状態で推移しています。咽頭結膜熱は、以前は夏季を中心に流行していましたが、最近では冬季にも報告数の増加が見られています。地域別では、岡山市（1.36人）、美作地域（1.17人）、備中地域（0.57人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。また、先週までの発生状況を見ると、備北地域でも高いレベルで推移しています。年齢別では、1歳16%、3歳14%、5歳12%の順で多く報告されており、0歳～5歳の乳幼児が66%を占めています。

## 【全国の発生状況】



全国の第6週までの発生状況を見ると、2013年第37週頃から過去10年で最も高いレベルで推移しています。

(国立感染症研究所 IDWR 速報データ 2014年第6週)



都道府県別の発生状況を見ると、石川県（1.55人）、島根県（1.48人）、鹿児島県（1.33人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。近隣の県での定点あたり報告数が、岡山県に比べて多くなっていますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、しっかり手を洗い、患者との接触を避けるなど、感染予防に努めましょう。

### 【咽頭結膜熱とは】

咽頭結膜熱は、主にアデノウイルスに感染することによってみられる発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス性感染症です。感染経路は主に接触感染、飛沫感染ですが、その感染力は強力で、タオル、ドアノブ、エレベーターのボタン、階段の手すり等の患者が触れたものを触ることによっても感染する場合があります。通常夏季を中心に流行する疾患で、プールでの感染も多く見られることから、プール熱とも呼ばれます。患者の年齢は5歳以下が約6割を占めています。

### 【症状】

通常5～7日の潜伏期間を経て発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭炎によるのどの痛み、結膜炎にともなう結膜充血、眼痛、目やになどの症状がみられ、症状は3～5日程度持続した後、回復します。

### 【治療・予防】

特異的な治療法はなく、対症療法が中心となります。眼症状が強い場合には、眼科的治療が必要となることもあります。

予防法は、感染者との接触を避けること、流行時にうがいや手洗い、手指の消毒を実施することなどです。消毒法として、手指に対しては流水と石けんによる手洗い、器具に対しては煮沸や次亜塩素酸ナトリウムを用います。アデノウイルスに対して、消毒用エタノールの消毒効果は弱いとされています。

(国立感染症研究所 IDWR 2012年第25週<注目すべき感染症>咽頭結膜熱)

## インフルエンザ情報 2014 年 第 7 週 (2 月 10 日 ~ 2 月 16 日)

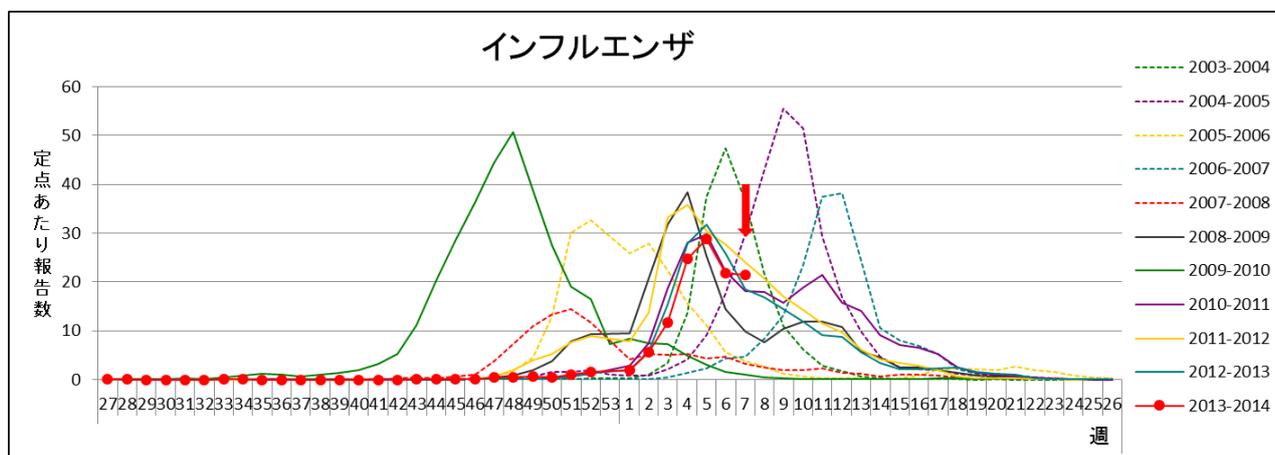
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

## ➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 1787 名 (定点あたり 21.84 → 21.53 人) の発生があり、前週とほぼ同数でした。
- インフルエンザによる入院患者 9 名の報告がありました。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 61 施設でありました。

## 【第 8 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 56 施設でありました (2 月 17 日~19 日)。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 1787 名 (定点あたり 21.84 → 21.53 人) の発生があり、前週とほぼ同数でした (83 定点医療機関報告)。1 月末ごろと比べると報告数は減少したものの、依然として多くの患者が報告されており、岡山県では「インフルエンザ注意報」を発令中です (1 月 16 日発令)。

地域別では、岡山市 (29.27 人)、倉敷市 (25.88 人)、備中地域 (20.42 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山市及び倉敷市では再び報告数が増加しました。

第 7 週の学校等の臨時休業は 61 施設から報告がありました。第 8 週も臨時休業が多発していることから、今後幼稚園児、小学生、中学生を中心に患者の発生が懸念されます。『外出後や食事前の手洗い・うがいを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『十分な睡眠をとる。』など、感染予防に努めて下さい。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

## ◆インフルエンザが流行しています。感染予防と拡大防止に努めて下さい。

◎外から帰ったときや、食事前には手洗い・うがいを心がけましょう。

アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。

◎インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウイルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染します。

周囲の方々のためにも普段から「咳エチケット」を心がけましょう。

◎可能な限り人混みを避け、マスクを着用しましょう。体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた食事を心がけましょう。

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

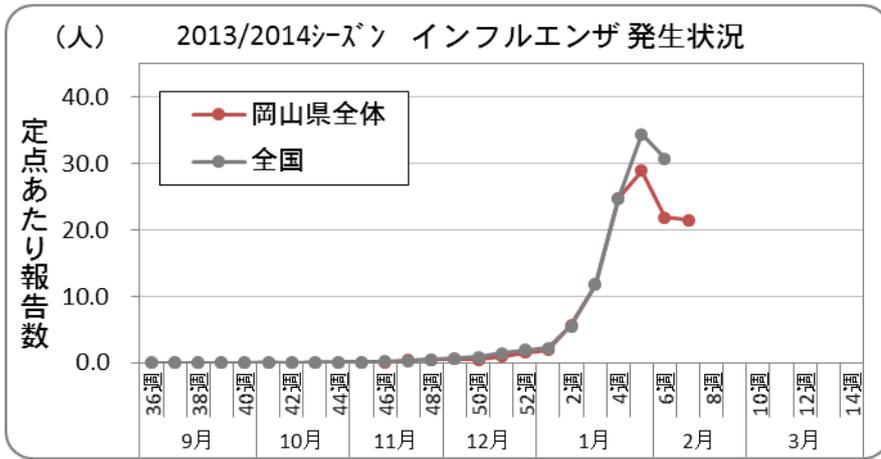
ワクチンは、感染を完全に防ぐことはできませんが、発熱期間の短縮や、重症化を防ぐことには効果があると言われています。

# 1. 地域別発生状況

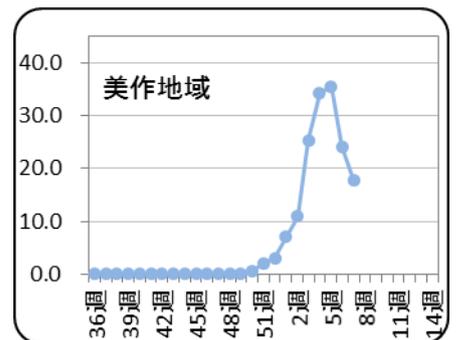
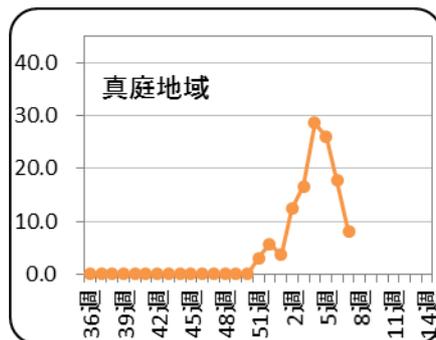
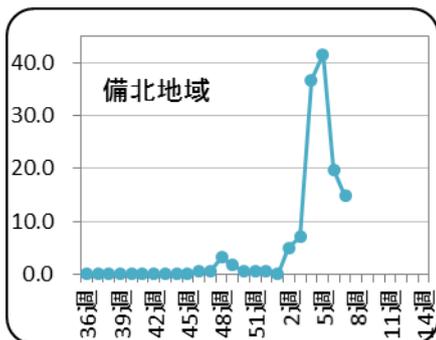
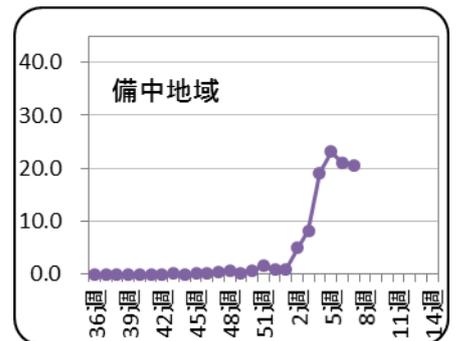
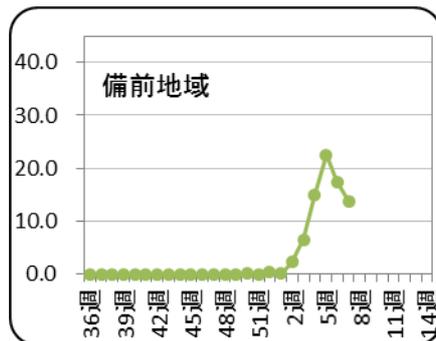
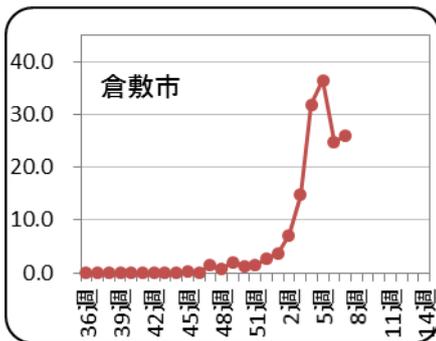
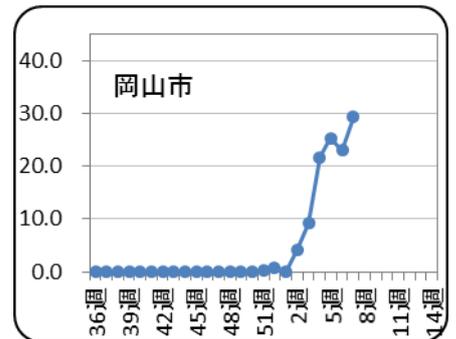
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1787	➡	備 中	患者数	245	➡
	定点あたり	21.53			定点あたり	20.42	
岡山市	患者数	644	➡	備 北	患者数	74	➡
	定点あたり	29.27			定点あたり	14.80	
倉敷市	患者数	414	➡	真 庭	患者数	24	⬇
	定点あたり	25.88			定点あたり	8.00	
備 前	患者数	207	➡	美 作	患者数	179	➡
	定点あたり	13.80			定点あたり	17.90	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ⬇ 1.1未満の増減 ➡  
1.1～2倍未満の増加 ➡ 2倍以上の増加 ↑

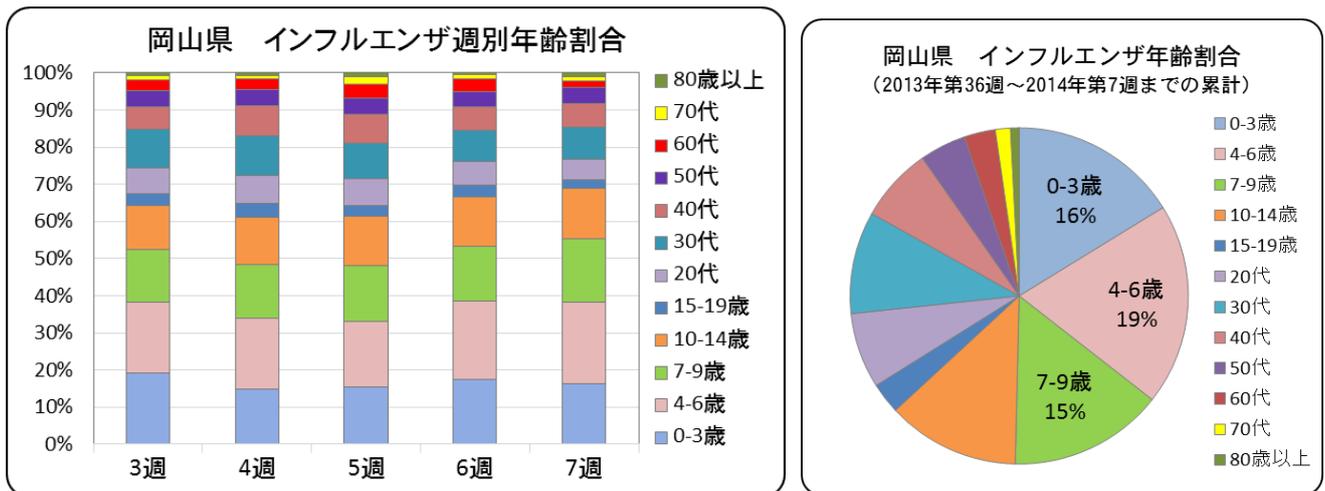


全国集計第6週(2/3～2/9)速報値によると、全国では定点あたり30.72人であり、16週ぶりに減少しました。地域別では、大分県(52.38人)、群馬県(43.08人)、埼玉県(41.77人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、13道県で増加が見られましたが、34都府県で前週より減少しました。



## 2. 年齢別発生状況

週別の年齢割合を見ると、14歳以下の年齢層の割合が徐々に増加しています。今シーズン（2013年9月2日～）の年齢別累計割合は、4-6歳 19%、0-3歳 16%、7-9歳 15%の順で多くなっています。



## 3. インフルエンザウイルス検出状況

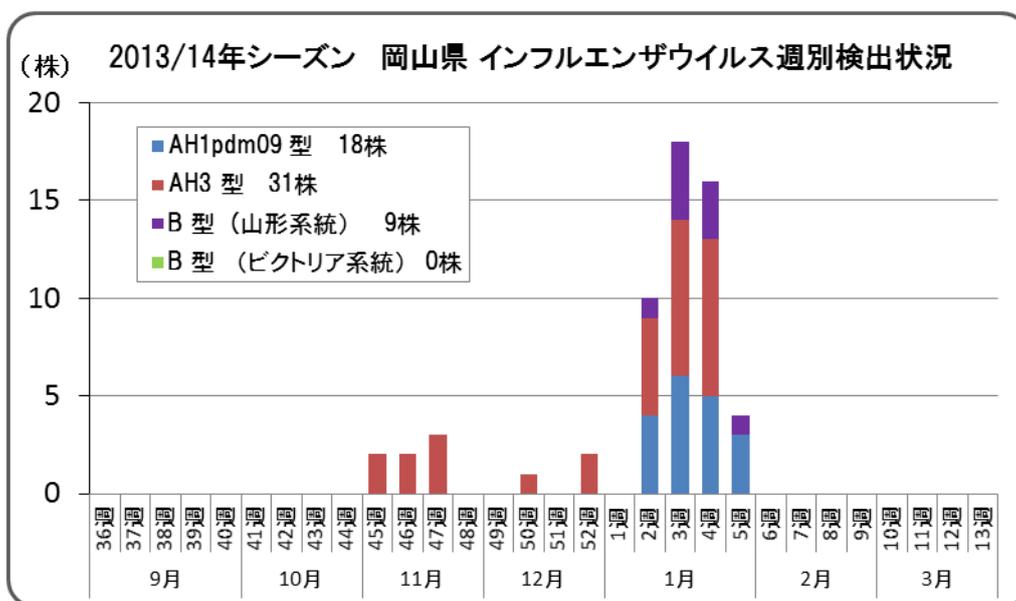
第7週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンでこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が31株（53%）、AH1pdm09型が18株（31%）、B型が9株（16%）となっています。

### ・ [\(岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況\)](#)

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 45%、AH3型 31%、B型 25%の順に多く検出されています。1月以降はAH1pdm09型の検出割合が増加しています。

AH1pdm09型のインフルエンザウイルスは、4年前の2009/2010年シーズンに新型インフルエンザとして大流行（検出割合 98%）しましたが、2011年4月以降は、通常の季節性インフルエンザの扱いとなったウイルスです。その後の2シーズンは低い検出率（0.2～2.4%）でしたが、今シーズンは3年ぶりに検出率が高くなっています。（平成26年2月20日現在）

### ・ [\(インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)\)](#)

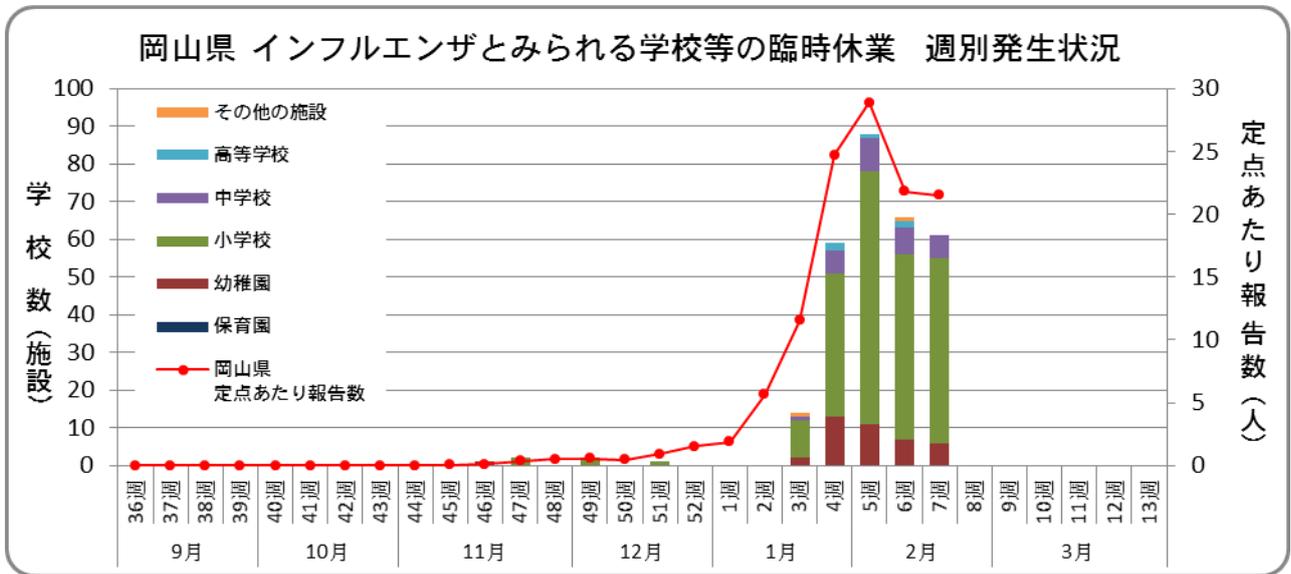


#### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 61 施設でありました。

##### 【第 7 週 臨時休業施設数】

▽岡山市 27   ▽倉敷市 8   ▽備前市 3   ▽瀬戸内市 1   ▽総社市 4   ▽井原市 1   ▽笠岡市 1  
▽早島町 1   ▽高梁市 1   ▽真庭市 2   ▽津山市 9   ▽美咲町 2   ▽美作市 1



##### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
<b>岡山県全体</b>	<b>1055</b>	<b>4552</b>	<b>758</b>	<b>3389</b>	<b>61</b>	<b>294</b>	<b>2</b>	<b>11</b>	<b>18</b>	<b>81</b>	<b>41</b>	<b>202</b>	<b>H25.11.13</b>
岡山市	585	1942	394	1353	27	108	0	1	6	19	21	88	H26.1.14
倉敷市	119	693	92	547	8	52	0	1	2	11	6	40	H25.11.18
備前地域	53	338	39	263	4	25	0	0	2	11	2	14	H26.1.16
備中地域	77	402	63	317	7	28	0	0	2	10	5	18	H25.11.13
備北地域	4	64	3	47	1	8	0	2	0	2	1	4	H26.1.23
真庭地域	13	62	10	49	2	7	0	0	2	6	0	1	H26.1.27
美作地域	204	1051	157	813	12	66	2	7	4	22	6	37	H25.12.20

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

##### 2) 臨時休業施設数の内訳

第 7 週 : 61 施設

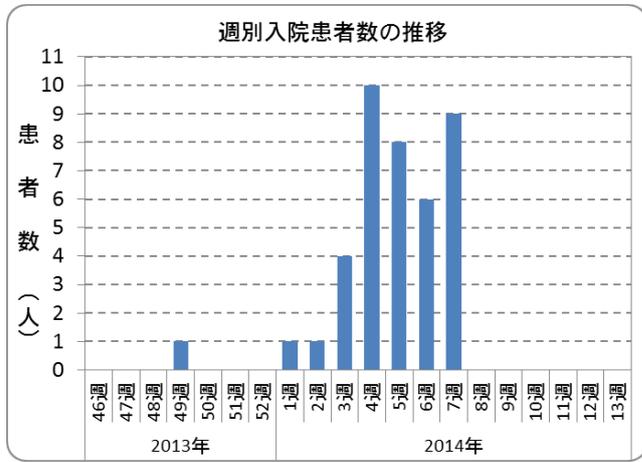
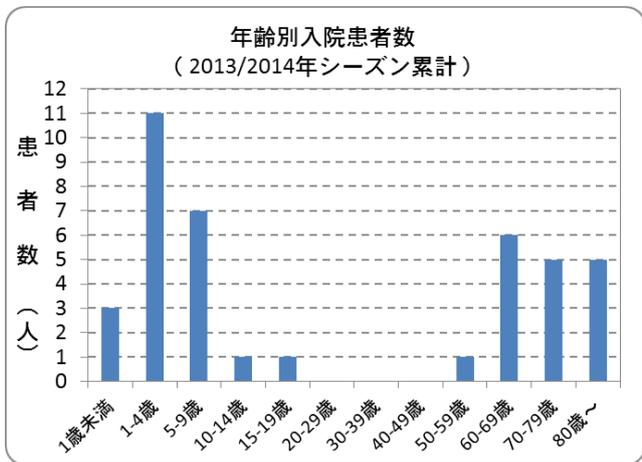
累計 : 294 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	6	40	49	218	6	29	0	5	0	2

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、9 名（1 歳未満 1 名、1-4 歳 3 名、5-9 歳 2 名、15-19 歳 1 名、70 代 1 名、80 歳以上 1 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 7 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	1	3	2		1						1	1	9
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)		1											1
頭部 MRI 検査(予定含)			1										1
脳波検査(予定含)			1										1
いずれにも該当せず	1	2	1		1						1	1	7

\* 重複あり

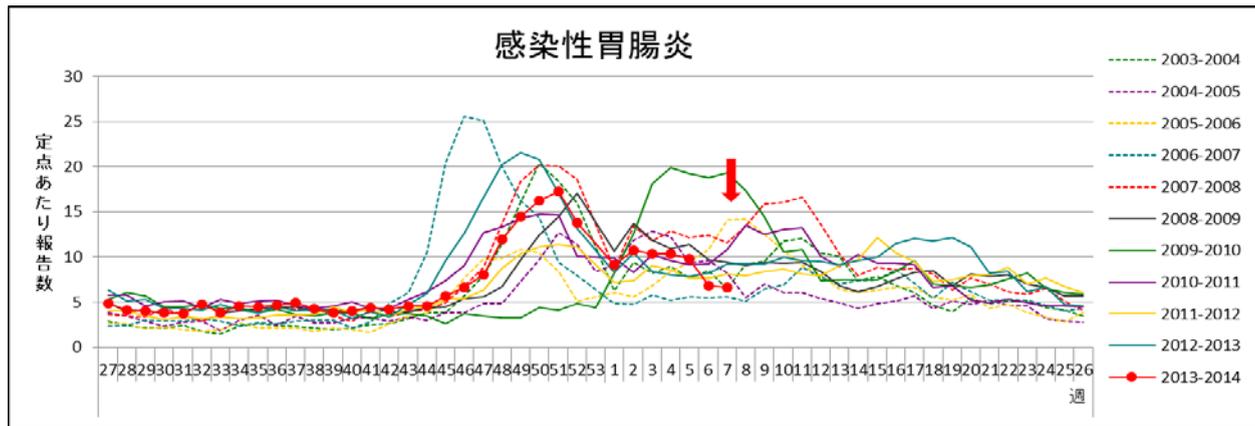
【平成 25 年 9 月 2 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	3	11	7	1	1				1	6	5	5	40
ICU 入室		1							1				2
人工呼吸器の利用		1											1
頭部 CT 検査(予定含)		3	1						1		1		6
頭部 MRI 検査(予定含)	1	2	1						1		1		6
脳波検査(予定含)	1	2	1										4
いずれにも該当せず	2	7	5	1	1					6	4	5	31

\* 重複あり

## 感染性胃腸炎情報 2014 年 第 7 週 (2 月 10 日 ~ 2 月 16 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 351 名（定点あたり 6.79 → 6.62 人）の発生がありました（53 定点医療機関報告）。



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

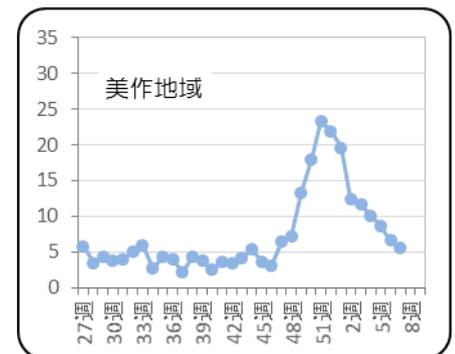
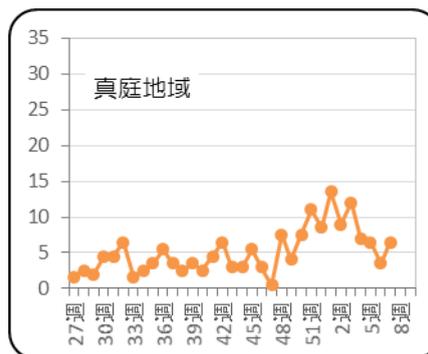
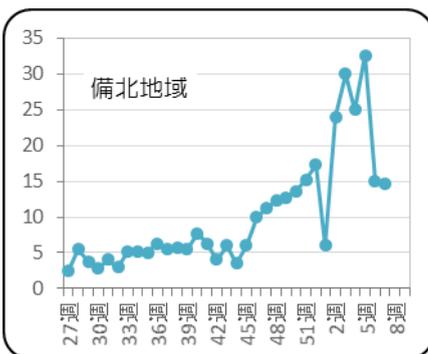
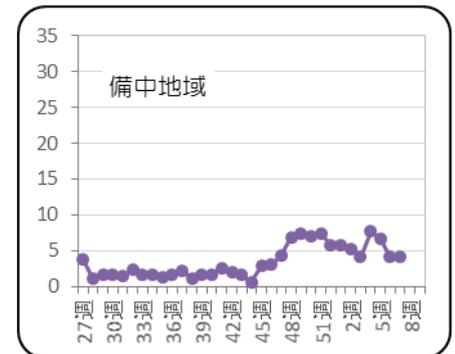
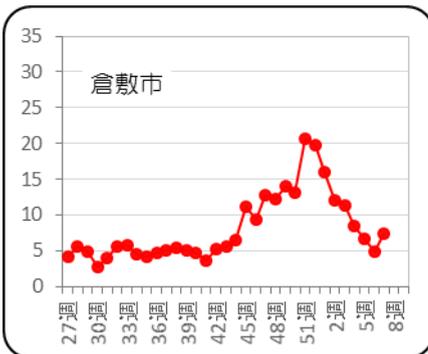
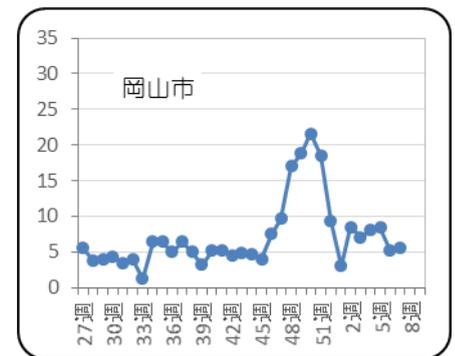
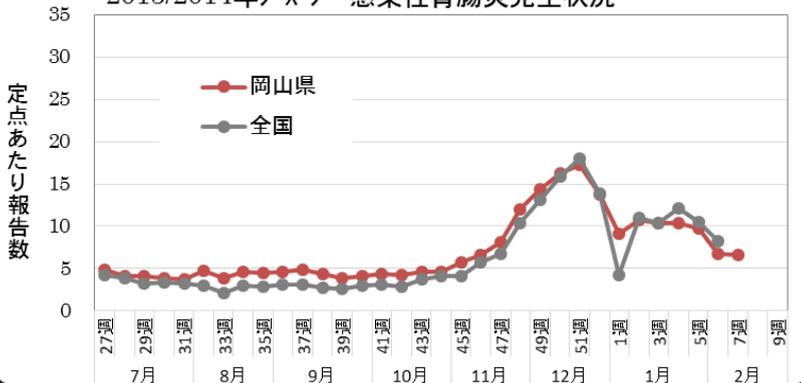
感染性胃腸炎は、県全体で 351 名（定点あたり 6.79 → 6.62 人）の発生がありました。前週とほぼ同数の報告となり、依然として多くの患者が報告されています。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

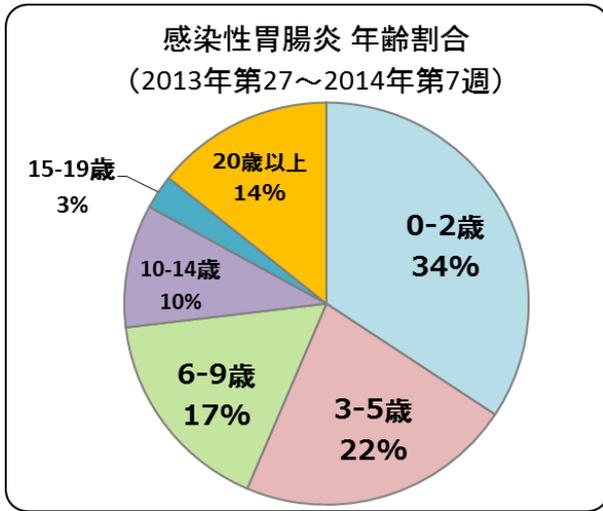
[○ノロウイルスに関する Q&A について \(厚生労働省\)](#)

[○感染性胃腸炎 \(特にロタウイルス\) について \(厚生労働省\)](#)

### ◆地域別・年齢別発生状況

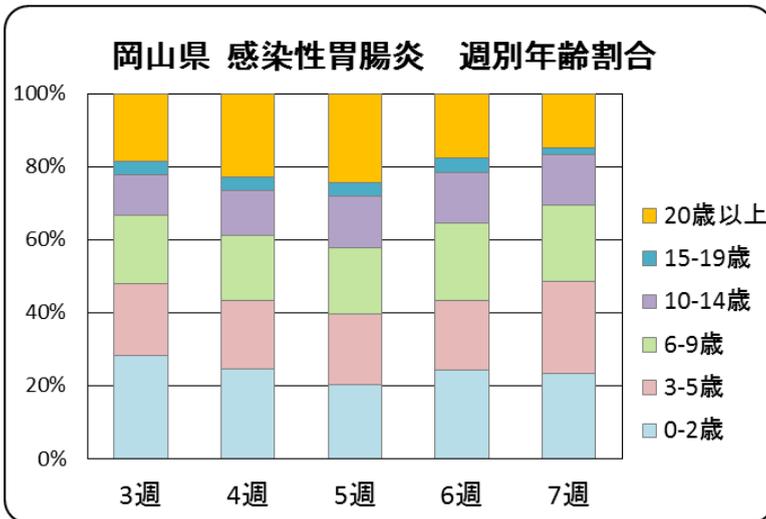
2013/2014年シーズン 感染性胃腸炎発生状況





レベル3		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
20	12	0 <small>未満</small>	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。



地域別では、備北地域（14.67人）、倉敷市（7.36人）、備前地域（7.10人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。備北地域では、第2週以降発生レベル3が継続しており、地域的な流行がみられています。

年齢別累計では、5歳以下の乳幼児が全体の56%を占めています。

また、例年春頃に、0～2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

### ◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

保健所別報告患者数 2014年 7週 (2014/02/10～2014/02/16)

2014年2月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1787	21.53	644	29.27	414	25.88	207	13.80	245	20.42	74	14.80	24	8.00	179	17.90
RSウイルス感染症	19	0.36	10	0.71	7	0.64	1	0.10	-	-	1	0.33	-	-	-	-
咽頭結膜熱	35	0.66	19	1.36	4	0.36	-	-	4	0.57	1	0.33	-	-	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	0.81	21	1.50	13	1.18	2	0.20	-	-	1	0.33	5	2.50	1	0.17
感染性胃腸炎	351	6.62	79	5.64	81	7.36	71	7.10	29	4.14	44	14.67	13	6.50	34	5.67
水痘	63	1.19	20	1.43	15	1.36	-	-	12	1.71	-	-	6	3.00	10	1.67
手足口病	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	14	0.26	7	0.50	2	0.18	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	0.09	-	-	2	0.18	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	3	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 7週 (2014/02/10~2014/02/16)

2014年2月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1787	21.53	644	29.27	414	25.88	207	13.80	245	20.42	74	14.80	24	8.00	179	17.90
咽頭結膜熱	35	0.66	19	1.36	4	0.36	-	-	4	0.57	1	0.33	-	-	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	0.81	21	1.50	13	1.18	2	0.20	-	-	1	0.33	5	2.50	1	0.17
感染性胃腸炎	351	6.62	79	5.64	81	7.36	71	7.10	29	4.14	44	14.67	13	6.50	34	5.67
水痘	63	1.19	20	1.43	15	1.36	-	-	12	1.71	-	-	6	3.00	10	1.67
手足口病	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	0.09	-	-	2	0.18	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	3	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2014年 第7週 2014/02/10～2014/02/16 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1787	6	30	77	95	84	138	120	132	121	110	77	243	41	98	155	111	77	35	19	18

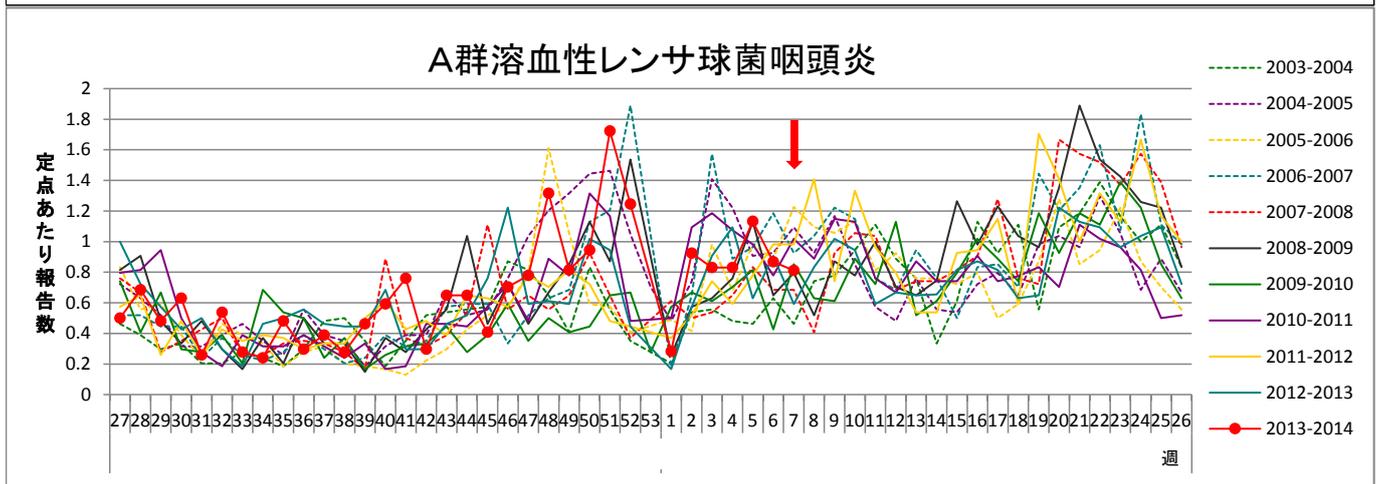
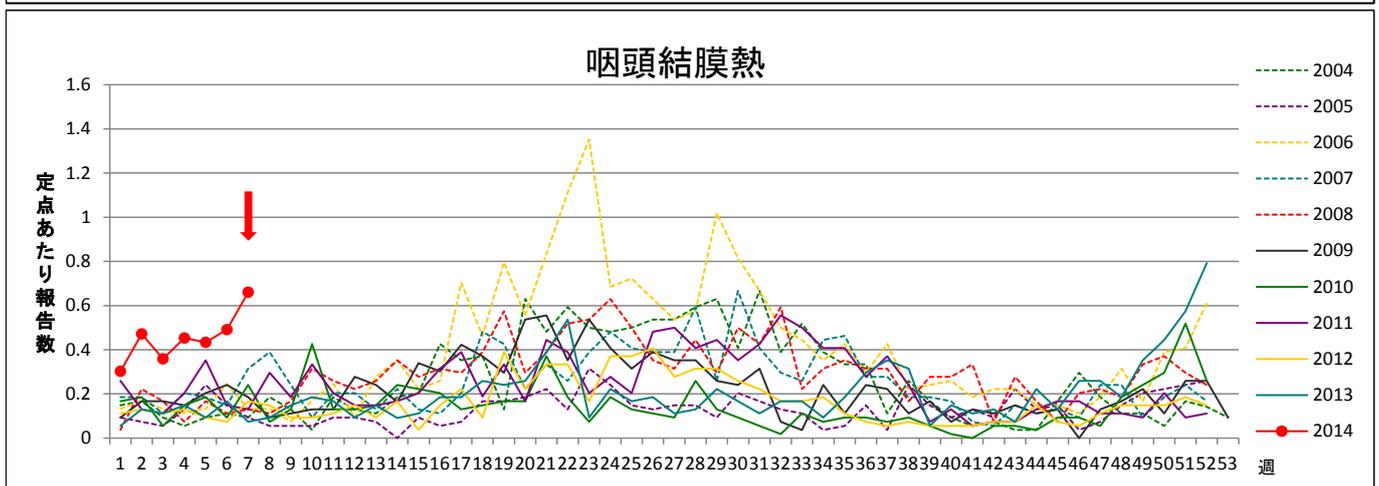
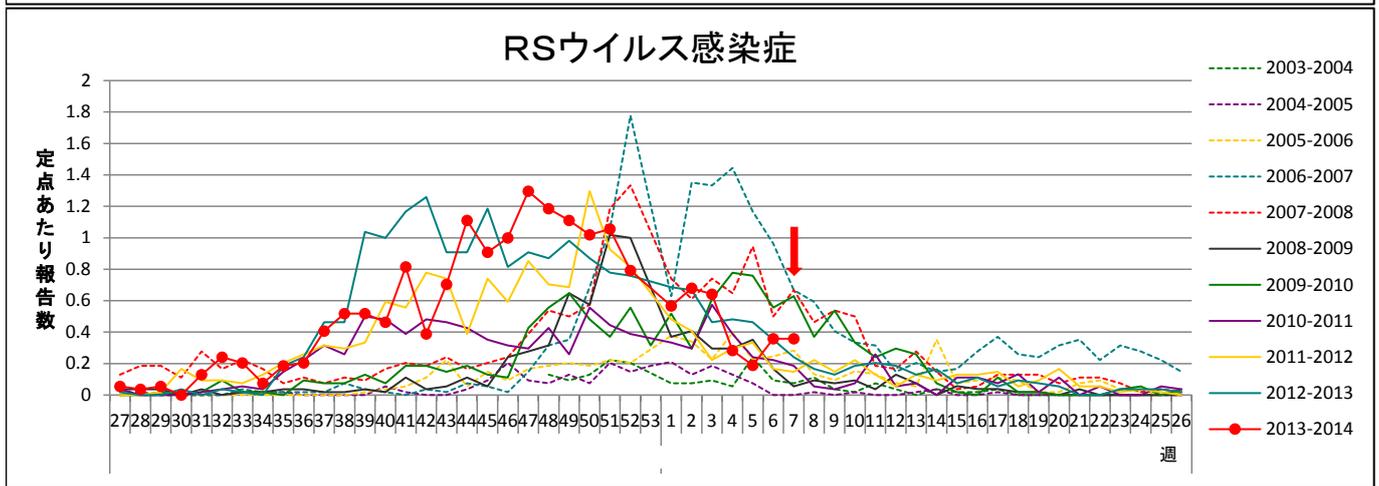
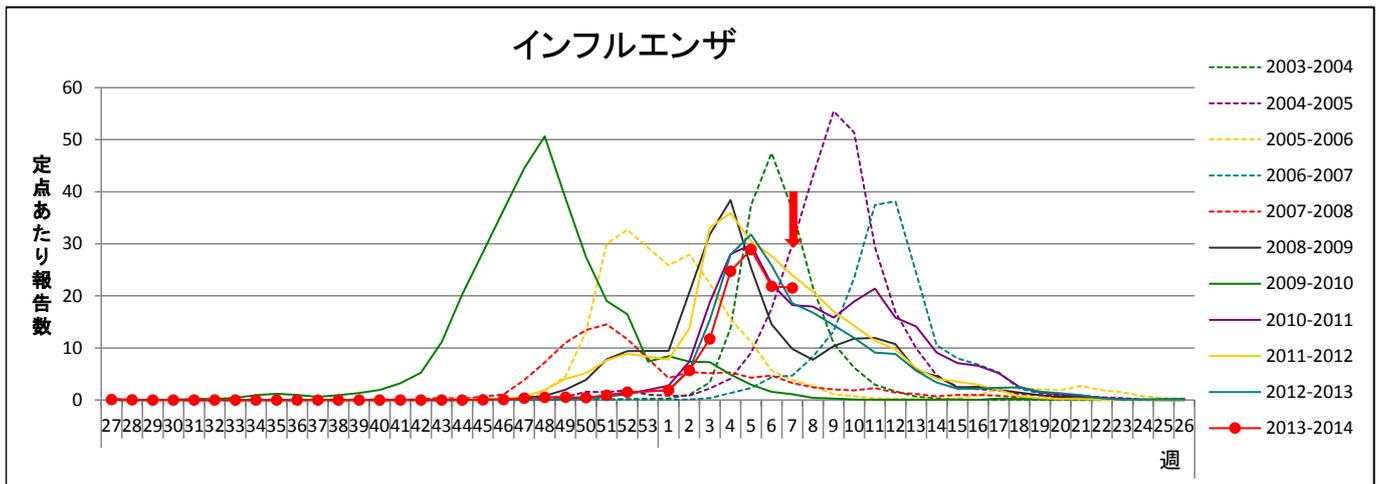
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	19	4	10	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	35	-	5	6	5	5	5	3	4	1	1	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	-	-	1	1	3	4	14	3	4	4	3	2	2	2
感染性胃腸炎	351	3	23	34	22	24	37	27	27	15	16	16	48	7	52
水痘	63	1	2	7	4	8	17	9	6	1	3	2	2	-	1
手足口病	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	14	1	4	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-

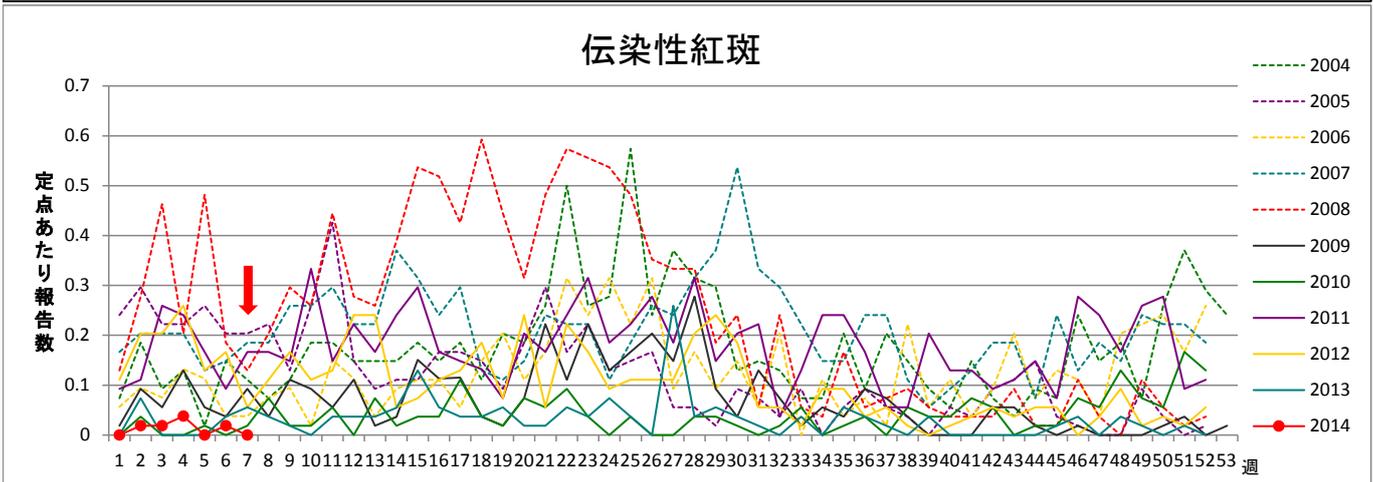
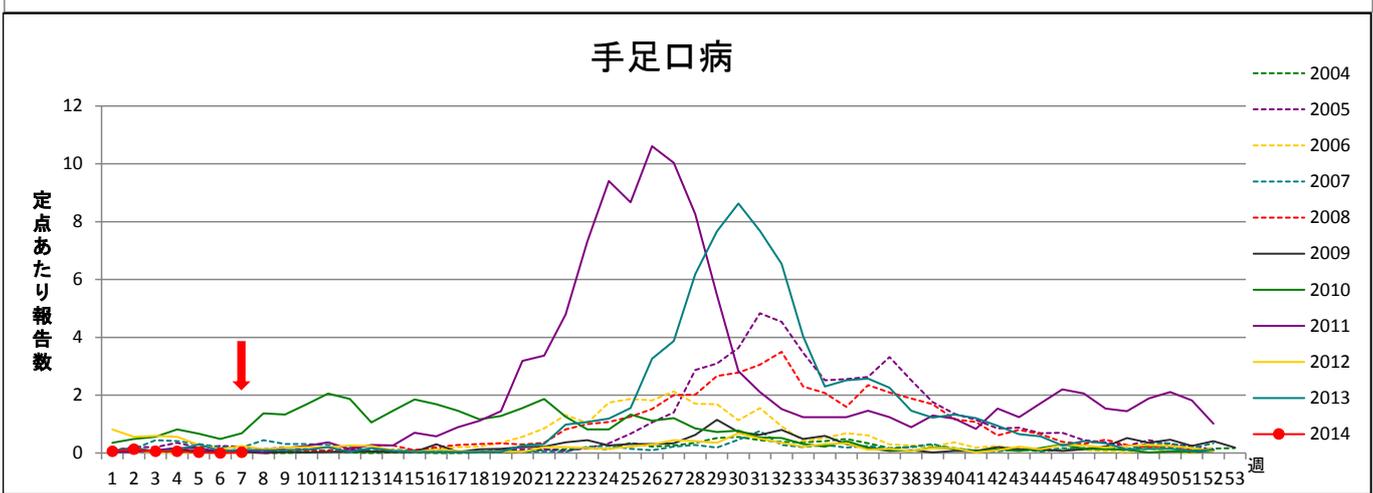
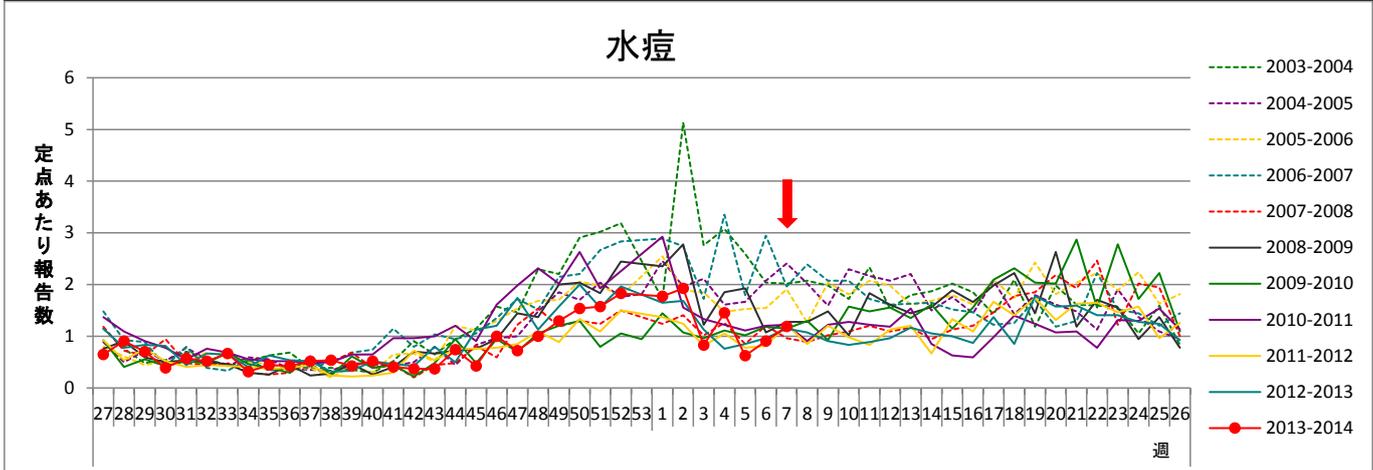
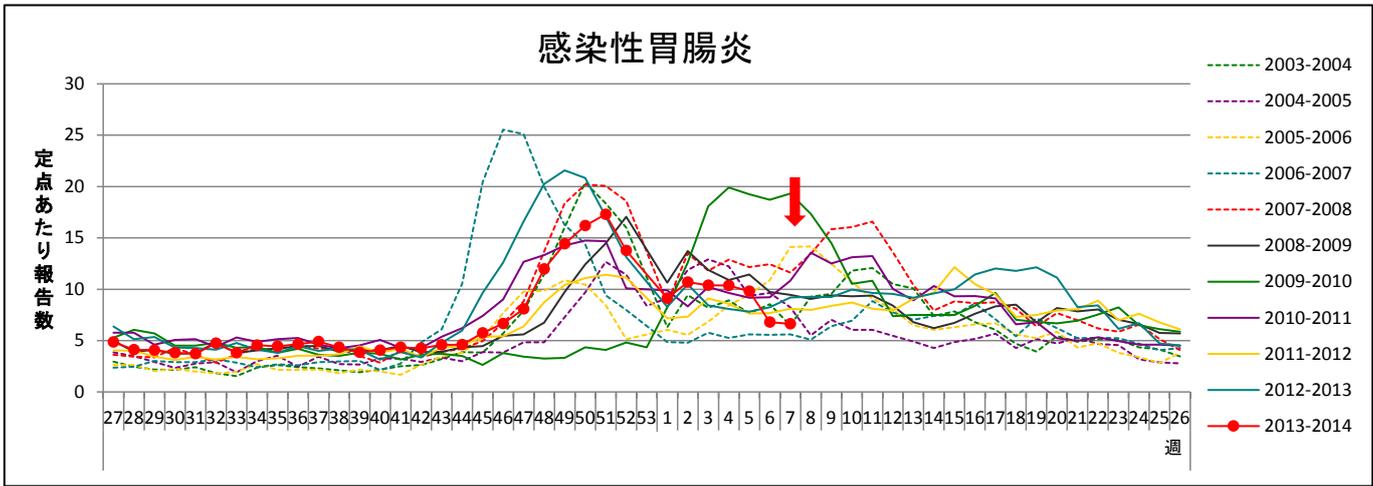
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

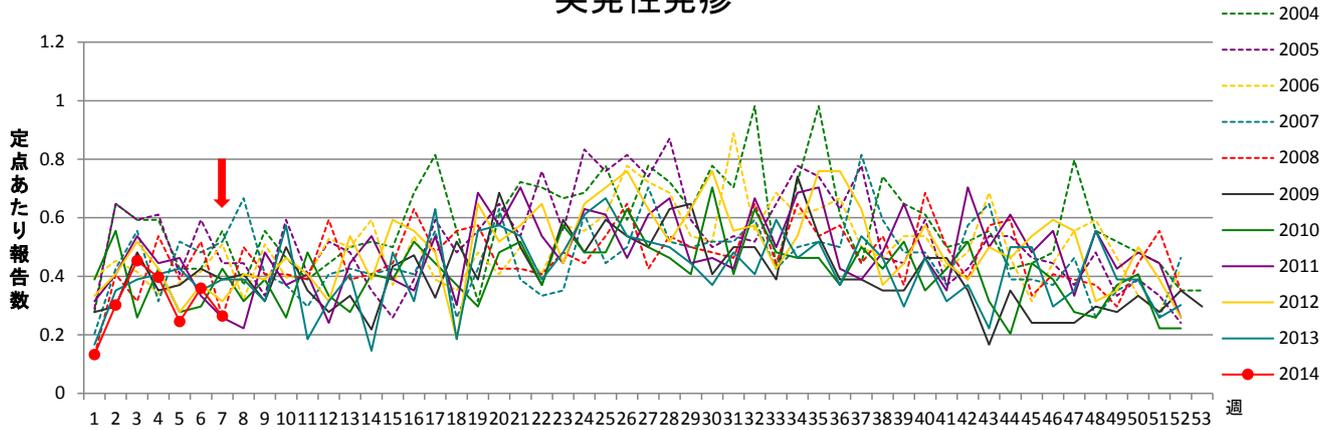
( - : 0 )



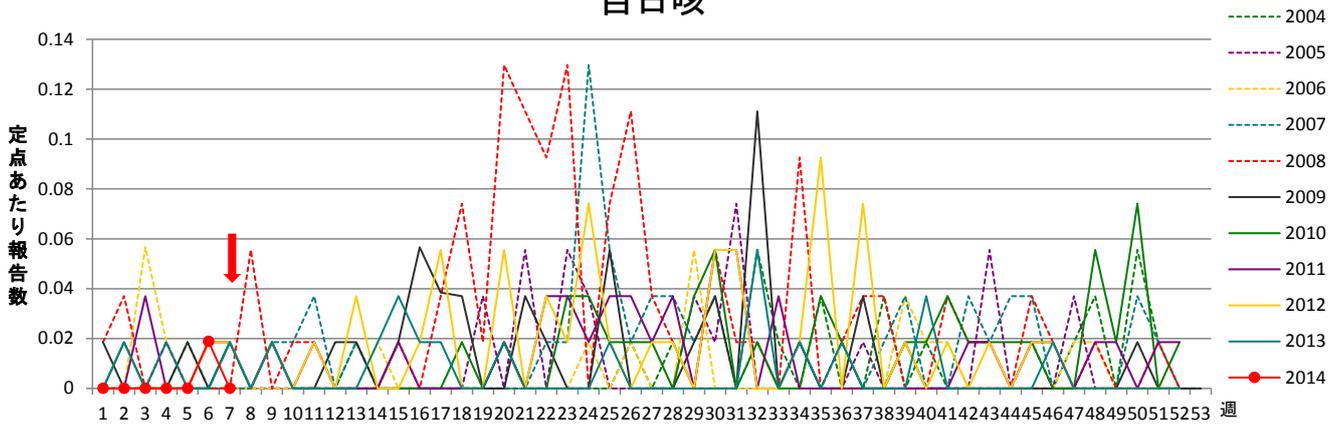




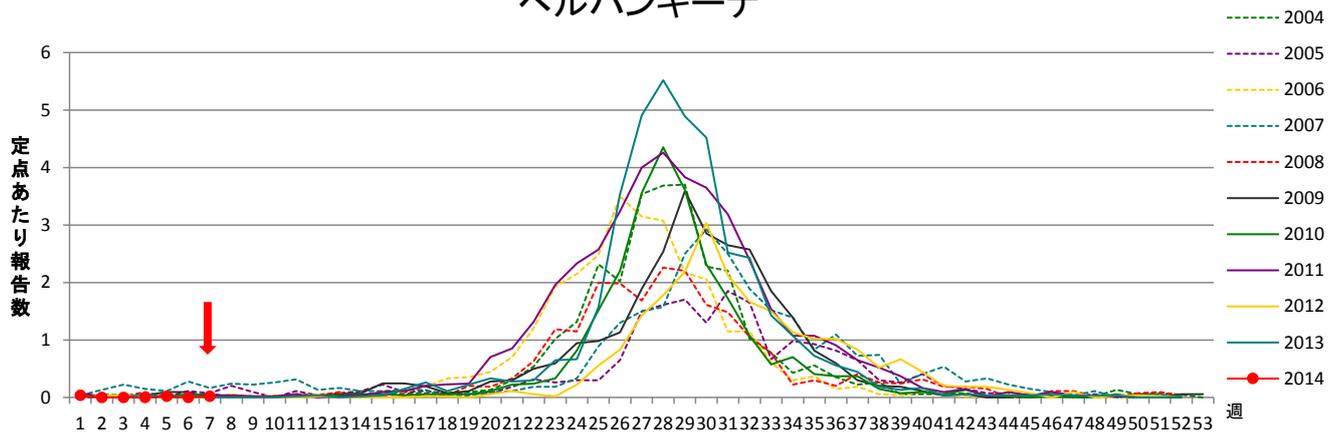
### 突発性発疹



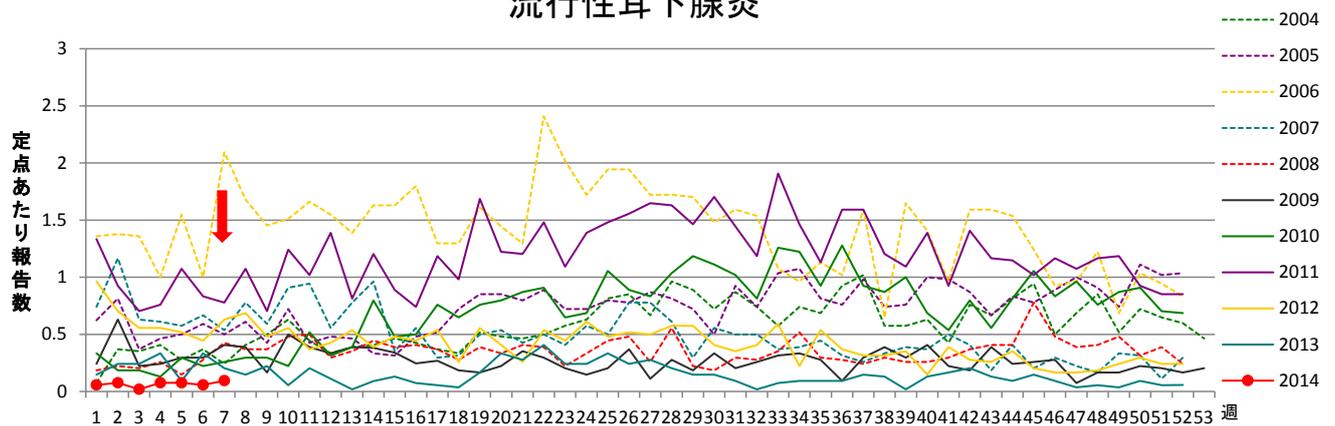
### 百日咳



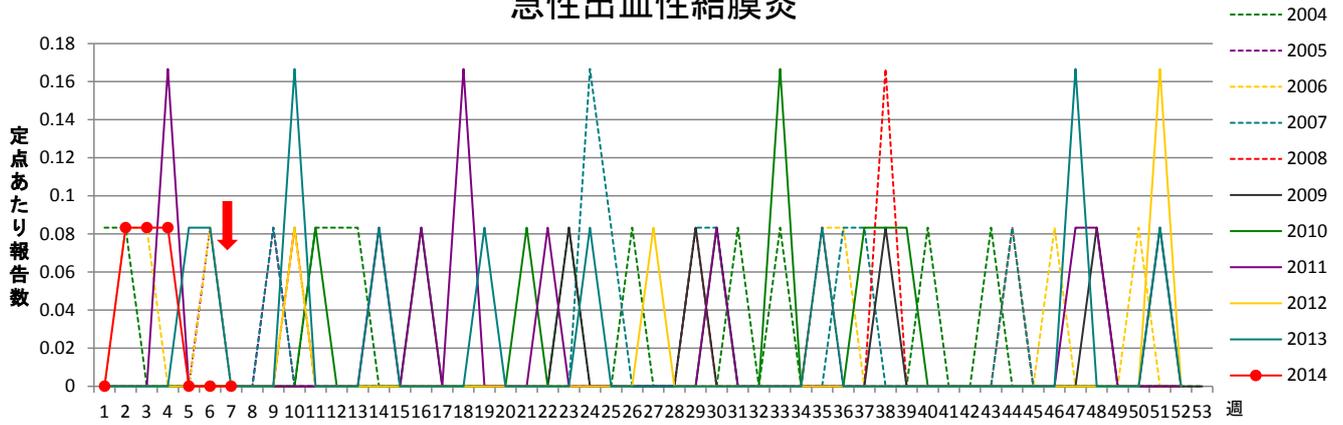
### ヘルパンギーナ



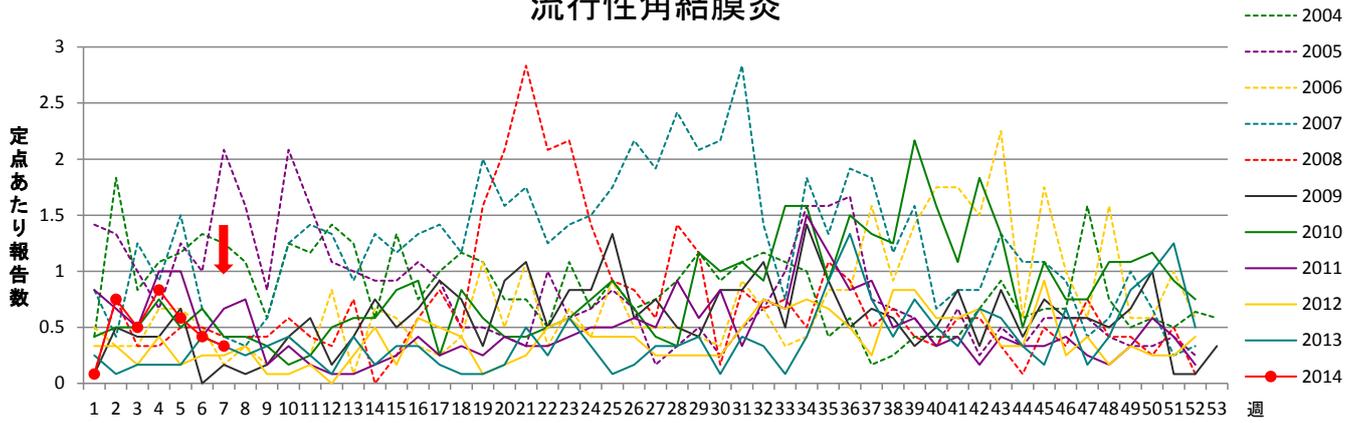
### 流行性耳下腺炎



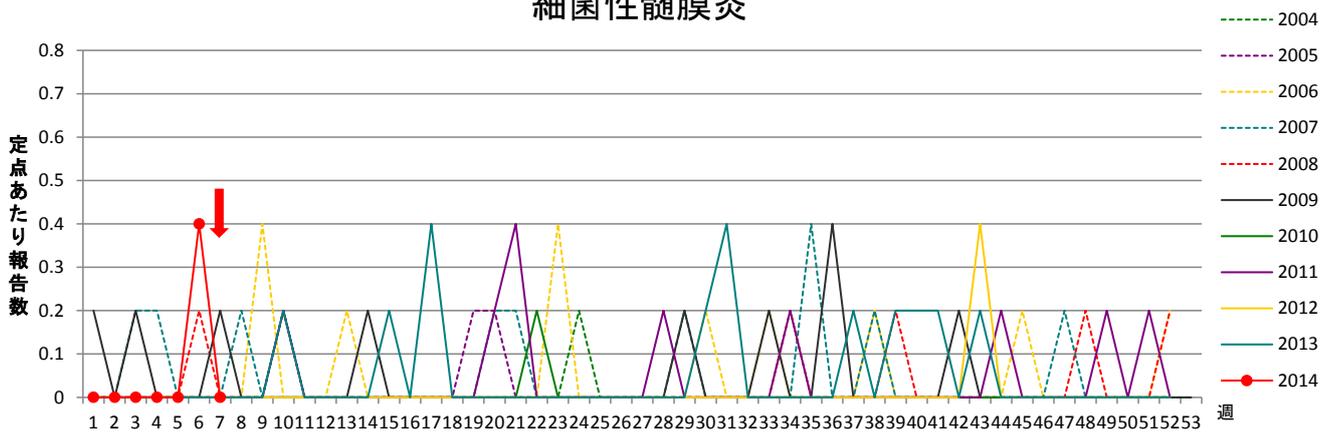
### 急性出血性結膜炎



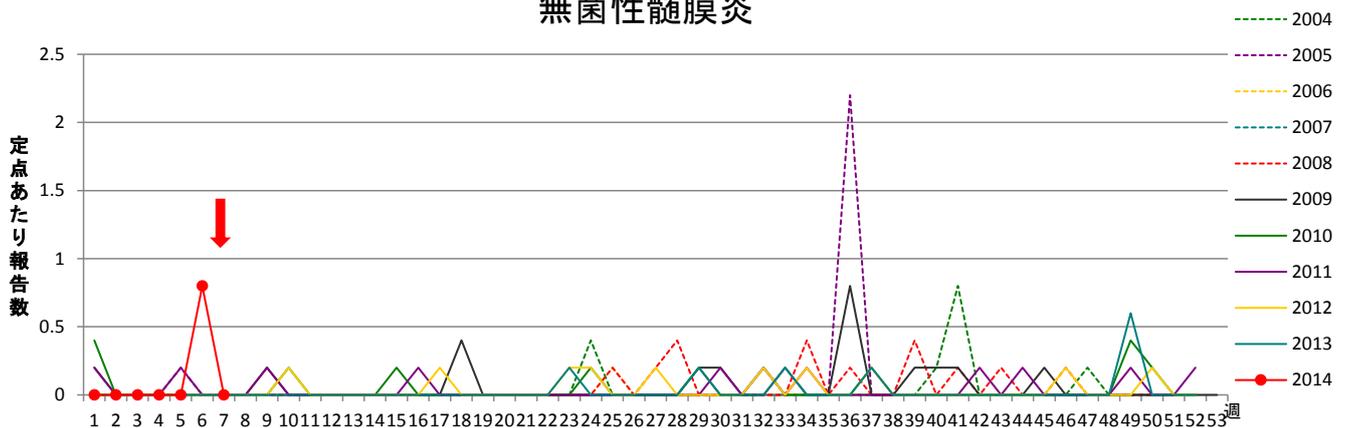
### 流行性角結膜炎



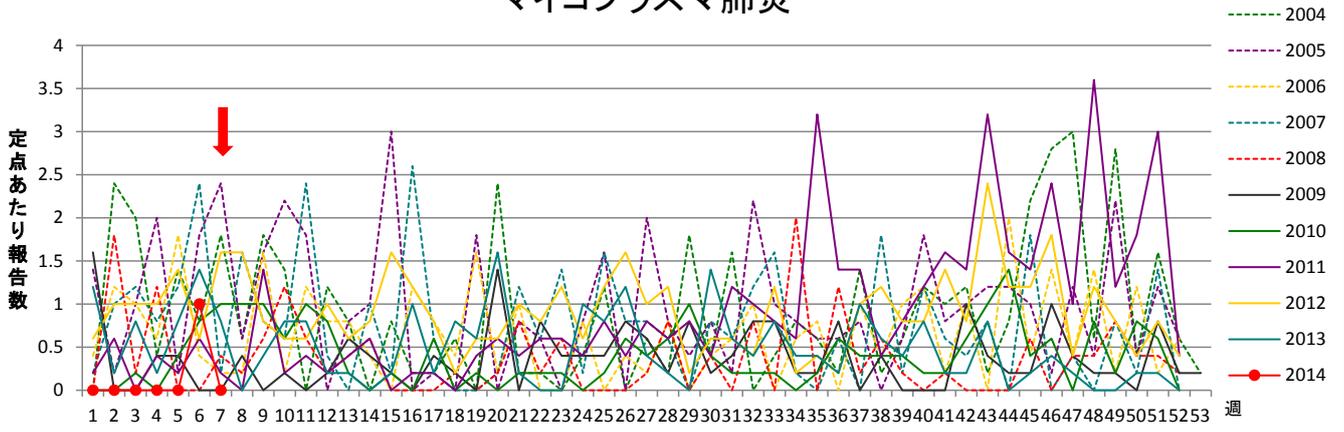
### 細菌性髄膜炎



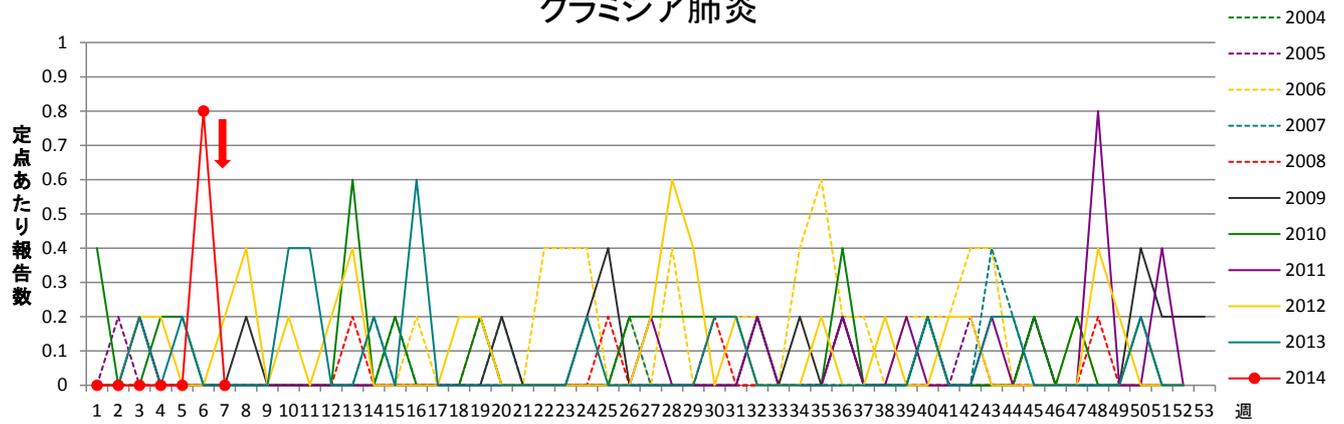
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

● 2013-2014

